

昭和の時代に戻りつつある社会

この前、犬塚弘さんが亡くなられたという報道がされ、クレージキャッツのメンバーがいなくなったと言われていました。三無主義といわれ、それを歌にして歌われていたことを思い出します。何もなかった時代から個人商店を経て、スーパーができ、やがてコンビニへと変わっていきました。個人商店がなくなっていき、大型スーパーや大型店舗になっていきました。

お弁当屋さんができ、銀行の支店があっちこっちに出来ていきました。蒸気機関車から電化が図られていき大量消費の時代に入っていました。病院もあちこちにできていきました。大家族から核家族化が進むに連れて農地の宅地転用が進められていきました。農業は兼業農家が多く、農業を担う人たちの高齢化が進み、農業を担う人たちの減少が続いてきた。第一次産業の減ってきた要因はいろいろあるとは思いますが、政策の問題が大きかったと思います。

私は、経済学者でも起業家でも政治家でもありませんが、近年では銀行の支店がなくなっていき、コンビニは減っていき、ガソリンスタンドも減り、いろんなお店やデパートや古いホテルやマンションが廃業してきている。高度成長時代を支えてきた公共交通機関のバスやタクシーはもとより大量運送も人手不足で事業の縮小が行われ自動運転を取り入れようとしています。

福祉の分野でも人手不足でロボットの導入などが言われていますが、以前福祉の講演会でロボットの導入の発言をしたら、専門家から介護は人の手で行うものだといわれて怒られたことを覚えています。

1994年にフランスに行った時「移民（外国人）がフランス人の職を奪っていると言われていているけど、人がいないわけではなく、フランス人がきつい・汚い・危険な職に就きたがらないようになったからだ。」と聞かされました。それは、高学歴化と関係しているのではないかと指摘されている方がおられました。フランス人が高収入を求める余りに、社会的に避けられる職種が出てきてしまって、結果的に移民の人たちがそこを担うことになっているのではないかとこの指摘でした。

日本の人手不足は、ほんとうに人なのか。人が集まらない職種は人と接するところが多いように感じます。それに昔は3Kといわれたが、4K、5Kとも今は言われていますが、クレーマー等、人とのトラブルを避けたいということも人で不足の要因になっていないだろうか。

2000年に入って介護が福祉サービスになり契約制度になりました。民間企業の参入が始まり事業所としては増えました。障害者は消費者としての権利があるという主張をする方もおられました。20年あまり契約制度のもとで行われてきた福祉サービスは岐路に来ていると思いますが、皆様方はどのように思われていますか。

文責：平井誠一

